

まえがき

農林水産政策研究所のプロジェクト研究「環境・資源制約下における世界食料需給の予測手法精緻化に関する研究（平成13年度～15年度）」においては、当プロジェクト研究の客員研究員である中川光弘茨城大学農学部教授に、アジア諸国における食料需給と資源・環境問題について、需給モデルの構築の検討およびアジアのいくつかの国・地域における農業に係る水資源および土地資源をめぐる現状と問題点について調査を依頼してきた。そして、その調査結果をベースに、当プロジェクト研究の参加研究員が編集協力して、本プロジェクト研究の課題に即した研究成果として取りまとめを行ってきたところである。これらに加えて、平成14年11月13日に農林水産政策研究所において開催した特別研究会“Korean Agricultural Policy after the Establishment of World Trade Organization”における報告資料も合わせて、このたびプロジェクト研究資料の第2号『アジアにおける食料需給と資源・環境問題』を刊行する運びとなった。

本プロジェクト研究は、我が国の国民に対する食料の安定供給を図っていくという重要政策課題に対して、環境・資源制約要因を反映したより精緻な世界食料需給予測モデルの開発を行い、これを通じて国民に対する食料の安定供給の確保を図るための施策の推進に資することを目的として実施しているものである。本研究は、以下の二つの課題から構成されている。課題1は「環境・資源制約要因を考慮した世界食料需給モデルの開発」であり、環境・資源制約要因を反映したより精緻な世界食料需給予測モデルの開発に向け、モデル構造の理論的検討、データ加工・プログラミングを中心としたモデルの開発、開発されたモデルによる予測を行うものである。課題2は、「世界の主要地域における環境・資源制約要因を考慮した食料の潜在生産力に関する研究」であり、農業・食料生産に影響を及ぼす環境・資源制約要因の態様は地域的に様々であることから、世界の主要地域（国）について、農業・食料生産に影響を及ぼす環境・資源制約要因を考慮した食料の潜在生産力に関する分析をカントリースタディーとして行うものである。

本研究資料に取りまとめた成果のいくつかは、上記の課題1および課題2の両者にまたがる内容を有しており、また対象国・地域としては中国およびそのうちのいくつかの省、ならびに韓国、ミャンマーである。

最初の3報告では中国を対象に取り上げている。そして、コメ、コムギ、トウモロコシといった主要穀物について品目別に需給分析を試み、コメおよびトウモロコシについては需給モデルを構築し、それによる予測を試みている。このほか、中国農業については、農村地域における水環境の汚染問題のすさまじい現状、内モンゴルの乾燥帯における砂漠化の社会経済的な発生メカニズムとその防止対策としての政策対応のあり方、そして近年ジャポニカ種コメ生産の急激な増加がみられる黒竜江省における農地資源利用の変動について、それぞれ公式統計等に依拠した分析検討結果を収録している。これは、多様な農業生態環境を有する人口大国である中国の農業が直面している環境制約の地域性と多様性の理解促進の一助になることを意図したものである。

ミャンマーについては、同国におけるコメの需給予測を試みている。わが国においては、ミャンマー農業の研究の蓄積はまだ限られた段階にある中で、中長期的にみた同国のコメ輸出の可能性について分析検討しておくことの意味は決して小さくないと考えられる。

また、韓国農業については、Ahn 教授（Korea Chunbuk National University、韓国チュンブク国立大学、茨城大学農学部客員研究員 [当時]）による報告で、WTO 加盟後の韓国農業の中で最大の岐路に立つコメ政策の現状と問題点に関する論考を収めている。我が国農業に類似した構造問題を抱える同国の農業政策は、今や我が国農政および農業社会科学研究にとっても多くの示唆に富むものであることは言うまでもない。本プロジェクト研究に係る特別研究会に招へいた同教授による報告を本研究資料に収録することについて、快くご了解いただいた同教授に感謝申し上げる次第である。

以上の各報告は、本プロジェクト研究の課題構成との関連でいえば、一部は需要予測のための部分モデルの構築とその応用的研究に相当するものである。また、それと同時に、国別に主要食料の需給動向を規定する諸要因についてのカントリー・スタディに相当するものでもある。読者それぞれの目的に応じて活用していただければ幸いである。

本研究資料の編集に際しては、本プロジェクト研究の客員研究員として研究開始段階から連携協力関係を築き、研究推進に当たってきた中川光弘（茨城大学）が全体調整を図るとともに、個別の報告については本プロジェクト研究に参加する研究員がそれぞれ連携協力して、本プロジェクト研究の参考資料としてふさわしい内容のものになるよう努めてきた。研究成果として刊行するとともに、大方のご批判を得て、今後に残された問題点の解明につなげていきたいと考える所存である。

平成 15 年 5 月

農林水産省農林水産政策研究所
世界食料需給プロジェクト研究チーム
編集代表 水野正己
井上荘太郎
中川光弘